

2010年度(平成22年度)「教育研究支援事業」企画書

4月1日
広瀬中学校

学 級 数					生 徒 数				
1年	2年	3年	特別支援	計	1年	2年	3年	特別支援	計
1	1	1	1	4	7	10	8	2	27
学校教育目標		自ら学び 心豊かで たくましく生きる生徒を育てよう							
研究主題		「知りたい・わかりたい」から「考える・伝え合おう」へ 言語環境を充実させ、思考・表現する活動を通して							
研究教科等		小中連携教育							
設定理由		<p>小中学校が共通の研究主題のもと、研究内容や研究成果を共有し、同質の学校文化をつくることで、9年間の子どもたちの学びが安定するものと考え。</p> <p>1 1年目の実践は、次の2点を小中共通の実践課題として取り組んだ。 (1)「生徒指導の3機能」による学ぶ意欲を高める指導の工夫 (2)「的確な課題の把握」と「自分で考える・考えを交流する場」の工夫 その中で整理した課題は次の3点である。 問題解決の学習の中の集団解決の場面に必要な言語技術の習得と活用が進んでいない。 課題解決の筋道を「型」として身に付けさせ切れていない。 教師が「課題提示」を明確にできていない。</p> <p>2 2年目となる2009年度(平成21年度)は、「言語環境を充実させること」に重点を置き、小中で合同授業研を通して取り組んだ。具体的には、 (1)言語活動による思考力・表現力の基盤の形成 (2)書く活動による思考力・表現力の育成 (3)「ことばタイム」による言語技術の習得 である。また、本校が指定を受けている「広島県中学校指定事業(学力向上対策事業)を広げる取組み(活用力の育成)」も行った。 その中で整理した課題は次の3点である。 「理由をつけて発表する」ことができている生徒の割合が低いままである。 思考・表現のための具体的なスキルが身につけていない。指導とともに生徒相互のかかわりの中での学びを一層充実する必要がある。 基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分である。 (学力向上対策事業の福山市学力調査の結果から)</p> <p>3 そこで、3年目となる2010年度(平成22年度)は、次の3点に取り組む。 小中連携を生かし、中学校学力向上対策事業の取組みと成果を小学校へ普及する。 (1)言語活動の充実による「思考力・判断力・表現力の基盤」の形成 「書く」「説明する」活動の一層の充実(言語技術の活用を含む) 「ことばタイム」の見直しによる言語技術の確実な習得 (2)教えて考えさせる問題解決的な授業による思考力・判断力・表現力の育成 「考えるスキル」「表現のスキル」の指導 ペア学習等の協同学習 活用問題による検証 (3)基礎的・基本的な知識・技能の習得 わかる授業 学力診断 面談指導 家庭学習 家庭連携</p>							

研究主題等

3年間の研究の目標値

取組み内容	検証の指標	目標値		
		1年次	2年次	3年次
言語活動の充実による「思考力・判断力・表現力の基盤」の形成	教師及び生徒質問紙による回答率 T「言語技術の活用」 S「理由を伴う発言」		7月と12月で比較して、 10ポイント増	7月と12月で比較して、 10ポイント増 T：90% S：80%
教えて考えさせる問題解決的な授業による思考力・判断力・表現力の育成	教師及び生徒質問紙による回答率 T「スキルの指導」 S「考える力の向上」		7月と12月で比較して、 10ポイント増	7月と12月で比較して、 10ポイント増 T：90% S：80%
基礎的・基本的な知識・技能の習得	教師及び生徒質問紙による回答率 T「わかる授業」 S「学力の向上」	CRTによる 通過率が5ポイント以上向上		7月と12月で比較して、 10ポイント増 T：90% S：80%

本年度 研究実施計画 公開研のタイプ(C 型)

時期	具体の取り組み
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒へのアンケート実施 ・授業研究 ・学力及び学習状況の把握 ・面談指導，家庭連携 ・活用問題による検証
夏休み	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートによる実践交流 ・活用問題による検証結果の分析交流
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究 ・児童・生徒へのアンケート実施 ・公開研究会の開催 ・先進校視察（県へき地教育研究大会） ・学力及び学習状況の把握 ・面談指導，家庭連携
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究 ・児童・生徒へのアンケート実施 ・学力及び学習状況の把握 ・面談指導，家庭連携 ・次年度研究内容の検討と立案

